

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500389		
法人名	(有)やすらぎ赤座		
事業所名	グループホームやすらぎ		
所在地	岐阜県各務原市蘇原旭町1-89		
自己評価作成日	平成23年12月20日	評価結果市町村受理日	平成24年4月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokouhyou.jp/kai/gosi/p/informationPublic.do?JCD=2170500389&amp;SQD=320&amp;PCD=21111">http://www.kai.gokouhyou.jp/kai/gosi/p/informationPublic.do?JCD=2170500389&amp;SQD=320&amp;PCD=21111</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成24年2月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護職員達の温かい見守りの中、安心して生活が送れるように一人一人の個性に合わせて、作業療法等を取り入れて他者とのふれあいやコミュニケーションを大事にし、自分で出来ることはやって頂くようにその人の生活レベルに合わせて見守りをし、声掛けをしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

暖かい見守りの中、地域との関わりを大切に、安心して自立を目指し、寝たきりにさせない、を事業所の目標にしている。本人自らの意思により体を動かし、体力の増強を図っている。犬を飼い、散歩や餌やりは、利用者の毎日の役割の一つとなり、癒しにもなっている。同じ敷地内に母体の医療機関があり、気軽に医師が立ち寄ってもらえ、医師や看護師の緊急対応も可能である。また、職員の退職も少なく、利用者、家族が安心できる環境となっている。住宅街の真ん中に事業所があるため、住民とのふれあう機会も多く、職員は積極的に声かけし、交流を深めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	様々な機会を通じ地域の人々との交流を大切にするを理念とし、職員が意識し、交流を深めるように実践に取り組む	職員は事業所の理念をよく理解している。自分の親ならこうあって欲しいという思いをそのままサービスに展開している。積極的に地域住民とのコミュニケーションにも努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し祭りや行事にも参加している。地域のボランティア(婦人会)の方とも交流があり顔なじみとなり地域の見守りが構築されている。	散歩時や庭の前を通る住民には積極的に話しかけている。住民から利用者の好きな花や苗等をもらっている。地域の介護相談、中学生の体験学習やボランティアの受入も行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じ、自治会長や民生委員の協力の元、地域のボランティアとの交流が出来ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催しており、行事や問題点について報告や話し合いをしており、意見交換や他の事業所のサービス内容など参考にサービス向上に活かしている。	会議では事業所の状況、行事予定、ヒヤリハットの事例等を報告し、感染症や災害時の注意事項を話し合っている。しかし、議事録に出席者名や会議での話し合いの記録がなく活用されていない。	会議録には参加者及びテーマ毎の討議の内容や決議事項を明記しサービスの向上に活かすことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市からの入居依頼の問い合わせや、社会福祉協議会の方たちとの連絡を密にし、相談や要望指導を受けたりして課題、解決を図っている。	月1回程度の市職員の訪問時には事業所の現状を伝えている。生活保護受給者に対する社会福祉協議会の職員の訪問時には、利用者の要望を伝え相談の解決を図り、市の担当者にも内容を伝えてもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束となる具体的な行為を正しく理解しており、入居者の気持ちになって、身体的、精神的負担を理解している。玄関の施錠は利用者を守る意味で施錠をすることもある。	鍵かけの弊害について職員は認識している。最近徘徊がある利用者を受け入れたため、玄関は施錠していないが、家族の了解を得て徘徊が落ち着くまで敷地から外へ出る出口の鍵を常時かけている。	徘徊のある利用者について様々な方向からストレスや徘徊の原因、目的を探り、鍵をかけない状態を実現する目標時期を設定して、鍵をかけずに安全に過ごせるよう工夫されることを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での虐待はされていない。職員間での報告を密にし、見過ごされることがないように全職員で見守り防止を徹底して図っていく。		

グループホーム やすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	この制度の必要性に応じて解らないことは、市・関係者に問い合わせをしたりしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申込時に説明をした上で入居を決めて頂いています、また改正等が生じた場合は文書にて送付してご理解・ご協力を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「ふれあい箱」を設置し、気軽に意見や要望を言えるような関係作りに努めています、又、行政機関などを利用して苦情を表せるよう表記しています。	職員は、利用者に家族のように接し、気軽に要望を聞いている。家族からは、訪問時に意見、要望を聞いている。意見、要望は職員のミーティングで検討し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回ミーティングを開き意見を反映させている、事業所全体では、年2回の会議を開催して他の事業所での意見交換もしています。	職員の勤務に対する要望等は、翌月の予定表を提出する際に、管理者が聞き対応している。レクリエーションの工夫、散歩等についての職員からの意見・要望が、会議の中で出され運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回親睦会を開き情報交換をし、コミュニケーションを図り、職員の考えや思いを把握するよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での定期的研修が行われている。外部講習の案内もあり、勤務内での受講の機会があり、研修費用の補助や資格取得に向けた支援がある。毎日のミーティングで働きながら学ぶを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は他のグループホームを訪問するなど交流はある。職員はサービスの質の向上の為に同業者との交流を努めていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学機会を設け、情報収集をし、本人にもわかる様にサービス内容を説明し、環境の変化によるストレスに早急に気づき安心して生活できる様に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学機会の際に家族の要望・質問などを受け、出来る限りの要望にこたえていきたい。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族から情報収集をし、何を必要としているかを見極めて、他のサービスが必要な場合は協力支援をするよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族的な雰囲気作りを大切に、駄目なことは注意する。又それぞれの得意分野を活かして、声を掛け合い、助け合いの精神で日常生活を送っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の意向や家族の要望に耳を傾け、相談内容に取り組んでいき、本人家族が安心して又絆を深めていけるよう関係を築いていきたいと思っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が何時でも面会、訪問しやすい雰囲気作りや、近くの喫茶店やお買い物など安心して行けるように再訪しやすいように心配りをしています。	家族や知人の訪問があるとお茶を出し「いつでも遊びに来て下さいね」と声を掛けている。日常の会話の中で、馴染みの人が分かれれば、ノートに追記し活用している。昔働いていた場所の近くまで出かけることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他者との人間関係が上手く築けず、孤立してしまう方もいますが、行事やレクレーション、作業療法などを通じて利用者同士が関わりあい、孤立しない雰囲気作りを努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談内容の電話や、再入院の相談に乗ったり、双方の近況を話しています、又退所された家族から野菜を頂いたり、交流を大切にしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションや本人がやりたいと思っている事などを聞きだして、出来ることは実践していきたい、生活に対しての不安がある為、話を聞いたり声掛けをしたりしている。	職員は利用者とのコミュニケーションを通じて利用者一人ひとりの楽しみを掴んでいる。花好きな人には庭の花の世話や玄関に花を飾る役、整理好きな人には掃除の役等を担ってもらい利用者の意向に応えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーも配慮しながら、見学のときなどにお話を聞き、その人の生活環境や困っていることなどを聞いてサービス向上に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の動きや体調の変化に早急に気づき申し送るなどで報告し見守り強化に努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意見聞きいれたり、又家族の希望・問題点などをミーティングで話し合って現状に即した介護計画書作りをしている。	毎月の会議の中でモニタリングを行い、6か月毎に介護計画を見直している。家族の訪問時に合わせて、ケア会議を実施することもある。状態に変化があれば、その都度見直し、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、個別に介護記録を記入し、気づいた事を申し送り話し合い、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その場の状況により本人家族の要望に応じ理美容の利用や近隣ケアの参加や地域のボランティア等の協力を得て支援している。		

グループホーム やすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	資源エネルギーの節約、花、野菜を植え、収穫を楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は医療施設が隣接するため、ご家族の方の当ホームのドクターを信頼されているため、何か異変があった場合は早急に対応している。	ほとんどの利用者は法人となっている医療機関の医師を頼って入居しており、歯科も含め隣接する医療機関にかかりつけ医を変更することを了承している。専門外や眼科受診の際は、医師の紹介状を持参し家族が付き添っている。困難な場合は職員が同行し、関係者で情報の共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化に早急じ気づき看護師を通じて相談し適切な看護や受診が出来るように心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族に経過をよく説明し、相談を行い早期退院について家族と医療機関との連絡がスムーズに行えるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、本人、家族の関係者話し合いをし、方針を確認している本人とは心穏やかに日々を過ごせるよう、細やかに介護出来るよう努めている。	入居時に本人・家族には、事業所では看取りは行わないことを伝え、母体の病院で行う方針を伝えている。しかし、利用者の状態の変化に合わせて、きめ細かく主治医と相談し、本人・家族の希望に沿って、事業所でできるだけ長く介護をしたいと努力している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師との初期急変等について情報交換し職員同士話し合いをして緊急な場合、応急手当が出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会のもと、消化器の使い方や避難経路の確保をし災害時の体制を全職員で把握している、運営会議でも話題にして話し合っている。	町内会長、民生委員等、地域住民の参加を得て、昼間と夜間想定防災訓練をし、反省会の結果、敷地内に避難場所を新規に作っている。水、栄養剤、タオル、ラジオ等の備蓄、防災グッズも準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全室個室になっており、プライバシーは守られている、又声掛けも人格を尊重し、気分を損ねないように対応している。	個人情報など聞かれたくない事は居室で話をしている。居室に入る時はノックをし「入ってもよろしいでしょうか」と許可を得ている。オムツ類は外から見えないように収納に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションをとり、その中から本人の希望を聞き取り、本人の意思に従って出来ることはやって頂く、又なんでも話せる関係を保って頂く。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースに合わせて見守りをしながら支援している、食事は時間がかかる方は焦らず、少し早目に食べて頂き、ゆとりをもって食べて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一回の理美容を行っている、外出する時には衣装を一緒に選んだり女性の方は、化粧をして女性らしさをいつまでも保ちたいと思っている方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中も、気が合う人同士近くに坐って頂き又、リクエストなどを聞いてメニューに取り入れたている、食器の後片付けは当番制にして一緒にしている	食卓に花を飾り、利用者同士の相性に配慮し席の配置を工夫している。献立は季節行事や利用者の希望を取り入れ調理をしている。食後の後片付けは利用者が行っている。花見に出かける時は、弁当持参で出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に食事量を守り、糖尿の方などは食事制限をしている。10時と3時にはティータイムとして水分補給をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けをして出来る方はご自分でやって頂き、出来ない人は、介助し又入れ歯の方はポリデント等の消毒作用の液体に週1回使用しています。		

グループホーム やすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導の声掛けや、食事前後の誘導を行っている。又昼間はオムツを外しトイレでの排泄が出来るよう支援している。	一人ひとり誘導した時間をメモに取り、排泄パターンを把握している。また、もぞもぞするなど落ち着かない様子があればトイレ誘導し、オムツを外すなど排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食後に乳製品のヨーグルトを取り入れたり、野菜中心の食事、水分補給をこまめに摂取して頂くように努めている、日課に体操も取り入れている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望を聞いて、入る順番などを決めている体調や気分がすぐれない方、後日体調が良い日に入る様支援している。	補助具を使い安全な入浴に配慮し、入浴時には、湯加減を聞くなど1人ずつ会話しながら入浴している。季節の湯や夏にはシャワー浴も実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠りが浅い方など、どうしても朝起きれないことがある人は、いつもより少し遅めの声掛けをしている、又日課として天気の良い日は布団を干して気分よく休んでもらっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ドクターの指示に従って、用法、用量を守って服用している。又体調の変化に早急に気づき、ドクターに報告し、薬の変更があればそのつど薬の内容を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その季節にあった行事(お花見・クリスマス会・お誕生日会)や個人の趣味(塗り絵・花壇の手入れ)など好きな事をやって楽しんでいます。時々喫茶店などに行って気分転換をしてもらっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	犬の散歩に出掛けたり、地域のお祭りや行事でのお花見に近くの公園まで桜を見に外出します。	天気が良ければ、車椅子の人も含めて、犬と一緒に散歩や公園、コンビニに出かけている。また、希望を取り喫茶店に行ったり、食材の買い物と一緒に出かけたりしている。	

グループホーム やすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	入居者一人一人の力量に応じて支援している。自己管理出来る方はじぶんで財布を持ち出来ない方は事務所で預かり本人の希望を聞き買い物支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム内に公衆電話を設置していて、何時でも好きな時に電話をかけられるようになっている。毎月手紙をかいて家族に送っている方のいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、季節のお花を飾って目で楽しんで頂いたり、ホームのお庭に花壇を作り、お花に水をあげたりと植物の生長を楽しみにしている。	小犬を飼い、居間や庭で利用者と戯れ、癒しの効果を高めている。玄関や居間には職員や利用者が花を生けている。台所と居間はカウンター越しにつながっており食事の匂いが漂い食欲をそそっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールで他者との会話を楽しめたりお庭に椅子を設置して天気のいい日に日向ぼっこしながら気の合う人同士会話を楽しんでいる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた家具を持って来て頂き好きな絵や写真を飾ったり少しでも自宅での生活との距離感がないようにしている	花の好きな人は花を生け、鉢植えも置いている。パソコンでゲームを楽しみ自分の時間を大切にしたりポット、冷蔵庫を持ち込む人など思い思いの居室作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ないの掃除や食後の食器拭き花壇の手入れなど日常生活の出来ることは無理のない程度にやっていただいている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2170500389		
法人名	(有)やすらぎ赤座		
事業所名	グループホームやすらぎ		
所在地	岐阜県各務原市蘇原旭町1-89		
自己評価作成日	平成23年12月20日	評価結果市町村受理日	平成24年4月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokouhyou.jp/kai/gosip/inforati.onPublic.do?JCD=2170500389&amp;SCD=320&amp;PCD=21">http://www.kai.gokouhyou.jp/kai/gosip/inforati.onPublic.do?JCD=2170500389&amp;SCD=320&amp;PCD=21</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成24年2月28日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	様々な機会を通じ地域の人々との交流を大切にするを理念とし、職員が意識し、交流を深めるように実践に取り組む		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し祭りや行事にも参加している。地域のボランティア(婦人会)の方とも交流があり顔なじみとなり地域の見守りが構築されている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じ、自治会長や民生委員の協力の元、地域のボランティアとの交流が出来ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催しており、行事や問題点について報告や話し合いをしており、意見交換や他の事業所のサービス内容など参考にしサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市からの入居依頼の問い合わせや、社会福祉協議会の方たちとの連絡を密にし、相談や要望指導を受けたりして課題、解決を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束となる具体的な行為を正しく理解しており、入居者の気持ちになって、身体的、精神的負担を理解している。玄関の施錠は利用者を守る意味で施錠をすることもある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での虐待はされていない。職員間での報告を密にし、見過ごされることがないように全職員で見守り防止を徹底して図っていく。		

グループホーム やすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	この制度の必要性に応じて解らないことは、市・関係者に問い合わせをしたりしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申込時に説明をした上で入居を決めて頂いています、また改正等が生じた場合は文書にて送付してご理解・ご協力を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「ふれあい箱」を設置し、気軽に意見や要望を言えるような関係作りに努めています、又、行政機関などを利用して苦情を表せるよう表記しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回ミーティングを開き意見を反映させている、事業所全体では、年2回の会議を開催して他の事業所での意見交換もしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回親睦会を開き情報交換をし、コミュニケーションを図り、職員の考えや思いを把握するよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での定期的研修が行われている。外部講習の案内もあり、勤務内での受講の機会があり、研修費用の補助や資格取得に向けた支援がある。毎日のミーティングで働きながら学ぶを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は他のグループホームを訪問するなど交流はある。職員はサービスの質の向上の為に同業者との交流を努めていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学機会を設け、情報収集をし、本人にもわかる様にサービス内容を説明し、環境の変化によるストレスに早急に気づき安心して生活できる様に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学機会の際に家族の要望・質問などを受け、出来る限りの要望にこたえていきたい。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族から情報収集をし、何を必要としているかを見極めて、他のサービスが必要な場合は協力支援をするよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族的な雰囲気作りを大切に、駄目なことは注意する。又それぞれの得意分野を活かして、声を掛け合い、助け合いの精神で日常生活を送っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の意向や家族の要望に耳を傾け、相談内容に取り組んでいき、本人家族が安心して又絆を深めていけるよう関係を築いていきたいと思っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が何時でも面会、訪問しやすい雰囲気作りや、近くの喫茶店やお買い物など安心して行けるように再訪しやすいように心配りをしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他者との人間関係が上手く築けず、孤立してしまう方もいますが、行事やレクレーション、作業療法などを通じて利用者同士が関わりあい、孤立しない雰囲気作りを努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談内容の電話や、再入院の相談に乗ったり、双方の近況を話しています、又退所された家族から野菜を頂いたり、交流を大切にしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションや本人がやりたいと思っている事などを聞きだして、出来ることは実践していきたい、生活に対しての不安がある為、話を聞いたり声掛けをしたりしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーも配慮しながら、見学のときなどにお話を聞き、その人の生活環境や困っていることなどを聞いてサービス向上に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の動きや体調の変化に早急に気付き申し送るなどで報告し見守り強化に努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意見聞きいれたり、又家族の希望・問題点などをミーティングで話し合っって現状に即した介護計画書作りをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、個別に介護記録を記入し、気づいた事を申し送りして話し合い、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その場の状況により本人家族の要望に応じ理美容の利用や近隣ケアの参加や地域のボランティア等の協力を得て支援している。		

グループホーム やすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	資源エネルギーの節約、花、野菜を植え、収穫を楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は医療施設が隣接するため、ご家族の方の当ホームのドクターを信頼されているため、何か異変があった場合は早急に対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化に早急気づき看護師を通じて相談し適切な看護や受診が出来るように心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族に経過をよく説明し、相談を行い早期退院について家族と医療機関との連絡がスムーズに行えるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、本人、家族の関係者話し合いをし、方針を確認している本人とは心穏やかに日々を過ごせるよう、細やかに介護出来るよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師との初期急変等について情報交換し職員同士話し合いをして緊急な場合、応急手当が出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会のもと、消化器の使い方や避難経路の確保をし災害時の体制を全職員で把握している、運営会議でも話題にして話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全室個室になっており、プライバシーは守られている、又声掛けも人格を尊重し、気分を損ねないように対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションをとり、その中から本人の希望を聞き取り、本人の意思に従って出来ることはやって頂く、又なんでも話せる関係を保って頂く。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースに合わせて見守りしながら支援している、食事は時間がかかる方は焦らず、少し早目に食べて頂き、ゆとりをもって食べて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一回の理美容を行っている、外出する時には衣装を一緒に選んだり女性の方は、化粧をして女性らしさをいつまでも保ちたいと思っている方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中も、気が合う人同士近くに坐って頂き又、リクエストなどを聞いてメニューに取り入れたている、食器の後片付けは当番制にして一緒にしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に食事量を守り、糖尿の方などは食事制限をしている。10時と3時にはティータイムとして水分補給をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けをして出来る方はご自分でやって頂き、出来ない人は、介助し又入れ歯の方はポリデント等の消毒作用の液体に週1回使用しています。		

グループホーム やすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導の声掛けや、食事前後の誘導を行っている。又昼間はオムツを外しトイレでの排泄が出来るよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食後に乳製品のヨーグルトを取り入れたり、野菜中心の食事、水分補給をこまめに摂取して頂くように努めている、日課に体操も取り入れている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望を聞いて、入る順番などを決めていく体調や気分がすぐれない方、後日体調が良い日に入る様支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠りが浅い方など、どうしても朝起きれないことがある人は、いつもより少し遅めの声掛けをしている、又日課として天気が良い日は布団を干して気分よく休んでもらっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ドクターの指示に従って、用法、用量を守って服用している。又体調の変化に早急に気づき、ドクターに報告し、薬の変更があればそのつど薬の内容を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その季節にあった行事(お花見・クリスマス会・お誕生日会)や個人の趣味(塗り絵・花壇の手入れ)など好きな事や楽しんでいきます。時々喫茶店などに行って気分転換をしてもらっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	犬の散歩に出掛けたり、地域のお祭りや行事でのお花見に近くの公園まで桜を見に外出します。		

グループホーム やすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者一人一人の力量に応じて支援している。自己管理出来る方はじぶんで財布を持ち出来ない方は事務所で預かり本人の希望を聞き買い物支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム内に公衆電話を設置していて、何時でも好きな時に電話をかけられるようになっている、毎月手紙をかいて家族に送っている方のいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、季節のお花を飾って目で楽しんで頂いたり、ホームのお庭に花壇を作り、お花に水をあげたりと植物の生長を楽しみにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールで他者との会話を楽しめたりお庭に椅子を設置して天気の良い日に日向ぼっこしながら気の合う人同士会話を楽しんでいる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた家具を持って来て頂き好きな絵や写真を飾ったり少しでも自宅での生活との距離感がないようにしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ないの掃除や食後の食器拭き花壇の手入れなど日常生活の出来ることは無理のない程度にやっていたいしている。		